

令和6年度 学校関係者評価委員会の報告

令和6年度に掲げた5つの重点目標に対し、学校関係者評価委員会として、キーワードと評価指標をもとに以下の通り評価、ご報告いたします。

1 重点目標について

(1) 人権尊重の教育を基盤に多様な個性がいかされる教育の推進を図る

生徒の「わたしは、他者を思いやろうとしている。」87.0%、保護者の「わが子は、他者を思いやろう正在すると思う。」89.0%と、昨年度に引き続き肯定率が高い数値を示しています。

また、生徒の「学校生活は、達成感がある。」は肯定率が80.7%と昨年度の73.9%より7%近く上昇し、肯定評価80%以上の目標を達成しています。しかし、保護者の「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。」は昨年度より8%ほど下がり、65.8%と低い数値でした。生徒と保護者の間に齟齬が生じた原因を検討し、充実した教育活動をお願いしたいと思います。

(2) よりよい教育を通してよりよい社会を創るために「社会に開かれた教育課程」を実現する

生徒の「総合的な学習の時間で学んだことは、自分の生活や将来に活かせると思う。」74.4%、「学ぶことが楽しい。」72.9%と高い肯定率です。目標値達成まで、生徒たちにとっての学ぶ楽しさ、学んで得た力を自分の将来に活かすことができるという意識を育てる、カリキュラムマネジメントの継続を望みます。

また、生徒の「わたしは富士中生の一員として、地域のボランティア活動に関わりたいと思う。」については、今年度新設の設問で、肯定率63.9%です。対して、「外部教師による授業は、視野を広げることにつながり、よい取り組みだと思う。」に関し、保護者89.0%、地域96.0%と、共に高い肯定率であり、生徒にも「社会の一員として支え合い、地域社会と協働する心を大切にする視点」を高める教育をお願いいたします。

(3) 「キャリア・未来デザイン教育」の実現を図る

生徒の「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある。」は67.2%、保護者の「本校は、子どもの進路や将来について考える授業がある。」は61.0%の肯定率となっており、いずれも低い数値となっています。生徒・保護者の双方が一定程度、進路や将来に関する教育を実感している一方で、前年度と比較すると、保護者の肯定的な回答は増加したものの、生徒の数値は低下しました。さらなる教育活動の充実を図り、より多くの生徒・保護者にその意義を実感してもらえるよう、引き続き取り組みをお願いいたします。

また、生徒独自項目である「漢字検定、数学検定、英語検定のためのキャリアアップ講座や放課後学習・学習相談は富士中生にとって役立つ取り組みだと思う。」については、生徒の肯定率が80.4%、保護者の肯定率が95.1%と高評価でした。今後も引き続き、充実した教育内容の継続を望みます。

(4) 教育デジタルトランス・フォーメーション（DX）の推進を実現する

DXの推進により、教職員の業務効率化や生徒それぞれの可能性を最大限に引き出すことが可能になります。この項目では、タブレット端末の活用、主体的・対話的で深い学び、学習習慣、生徒自身による学び方の工夫を評価指標としています。生徒の「先生は、課題について、自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中で取っている。」89.2%、「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」85.5%、教員の「私は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」は95.0%と高い肯定率となっています。一方、保護者の「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている。」では、63.4%と昨年度の70.5%よりさらに低い数値でした。

広報活動や情報提供の更なる工夫で改善されることを期待しています。

(5) 教職員のパフォーマンスを最大限に生かす学校を構築する

まず、教員の「学校としての働き方改革は進んでいる。」は 80.0% の肯定率で数値目標を達成しており、特に、茶道、華道、バスケ、サッカー、バドミントン、クッキング、数学、ダンス部などの部活動における外部指導員の活用が進んでいることが、先生たちの負担を減らすことに功を奏していると考えられます。引き続き、更なる改革の工夫、取り組みの継続をお願いいたします。

また、生徒の「先生たちは、生徒にていねいに指導している。」は 90.0% と高い肯定率である一方、生徒の「先生たちは、生徒が相談しやすい。」 65.7 %、保護者「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」 62.2 % と、教員の「私（本校）は、子どもや保護者が相談しやすいように努めている。」 85.0 %とのギャップが生じています。丁寧な指導を継続すると共に、相談しやすい学校を目指す更なる工夫を望みます。

2 学校関係者評価委員会の総合所見

学校関係者評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- (1) 保護者アンケートの回収率が低い結果となりました。情報提供方法を見直すこと、教職員や PTA の協力を仰ぐこと等で回収率を高くする努力が必要です。また、「わからない」との答えが多かった設問については、保護者への情報提供方法を考えるいい機会です。より相談しやすい学校を目指し、保護者との連携を密に生徒の安全や健康に対する意識を高めていただきたいと思います。
- (2) 学校の重点目標に関する生徒アンケート結果から、先生の指導方法に対する信頼度は高いと読み取れます。一方、「キャリア・未来デザイン教育」についての設問は生徒・保護者共に低い数値です。情報提供方法に更なる工夫が必要と思われます。
- (3) 自由記述アンケートでは、アンケート結果から読み取れない具体的な貴重なご意見もいただいており、今後の教育活動に活かせるよう真摯にご対応をお願いします。
- (4) 「富士中だより」の「先輩通信」は進路に役立つ貴重な情報なので、在校生にエールを贈るこの取り組みの継続をぜひお願ひします。
- (5) 昨年度の「キャリアアワード表彰」に続き、「令和 6 年度教職員及び児童生徒表彰」が決定しました。引き続き、学びの環境を充実させ、豊かな人間性を育む取り組みにご尽力いただきますようお願いします。
- (6) 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします（今年度は、パソコン教室床改修工事、体育館屋根散水設備工事を実施済み）。なお、継続する課題につきましては、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会 委員長 森 奈弓
委 員 三島 祥子
樋口 暁子
池田 孝子
荒川 かおり